

第7期町田市民文学館運営協議会第2回議事録

- 開催日時 2025年6月24日(火) 18:00～20:00
- 開催場所 町田市民文学館 大会議室
- 出席委員 会長 渡邊正彦
副会長 若宮和男
委員 岩崎 修
委員 卜部敦彦
委員 冠那菜奈
委員 草刈大介(リモート)
委員 中垣理子
委員 名取玲子
委員 渡辺祐真

- 事務局出席職員
市民文学館担当課長 羽生謙五
担当係長 荒井敬介
担当係長(学芸員) 神林由貴子
主任(学芸員) 山端穂
主任(学芸員) 谷口朋子

- 資料
資料1 4月1日以降の文学館の出来事
資料2 2024年度事業報告
資料3 2025年度事業計画
資料4 今後10年間の町田市民文学館のあり方について
資料5 2026-2027年の大規模修繕時になにをするのか?
資料6 文化施設の経営的視点で、いま、何が求められるのか?

○ 次第

開会

1. 事務局市民文学館担当課長自己紹介

2. 事務局からの報告

i. 4月1日以降の文学館の出来事について

【事務局】資料1について説明

【委員】

助成金申請の不採択の理由はきていますか？

【事務局】

「不採択」という結果のみ届きます。

【委員】

「ことばのカタチ展」について、来館者層が20代と50代に二極化しているのが特徴的。アンケートの属性（お住まいと認知経路とか、年齢と認知経路とか）のクロス集計をすると認知経路がわかるのでやってみるとよいと思います。

【委員】

紙のアンケートでこれだけ20代の数字がでてるのは面白い。感想にすごくいいご意見がたくさんありました。また、前回の会議で若い世代にきてほしいという話がありましたが実際に高校生など若い人が来ていて素晴らしいと思いました。

ii. 2024年度 事業報告

【事務局】資料2について説明

【委員】

コロナ禍以来、どのように文学館を運営していくかについて、職員の皆さんも色々と考え、また、運営委員の方々からご意見をいただいた結果がこのような、どこにだしても恥ずかしくない成果となっています。今後、これをどのように継続していくか、或いはさらに伸ばしていくかが焦点になっていくのではないのでしょうか。

iii. 2025年度 年間展示計画について

【事務局】資料3について、秋展が当初予定から変更した点を説明。

【委員】

曾我部さんにはコアなファンがいるので、どう伝えるかで集客が変わってくる。サブカルと文学の接点という意味では、メジャーなアーティストより、うまくやればよっぽど刺さるものが作れるのでは

ないかと思います。

【委員】

「作詞」という言葉を掘り下げるのはよいテーマだと思います。

【委員】

この館の特殊性・ユニークポイントとして、図書館的部分と展示の機能が両方あるので、それを連携させるのがよいと思います。曾我部さんが選書したものを借りていける、販売できるなどできるいいですね。最近、SNSで、展示に来てミュージアムショップでお土産を買って帰って、それをアップして拡散されているものをみかけます。曾我部さんのグッズや関連する書籍を売れたらいい。そうすれば売り上げも作りつつ広がりも生まれるのではないのでしょうか。

【委員】

ここでしか手に入らないオリジナルグッズが作れると更にいいですね。ステッカーだけでもうれしいと思う。

【委員】

曾我部さんの書籍や詩集はありますか？（事務局：あります）
あるのならば、図書館機能との連携をもっと強烈に進めていければよいと思います。

【委員】

ZARD以来のアーティストの展示なので楽しみにしています。

iv. 2026－2027年 大規模修繕について

【事務局】現在の予定を説明

2 討議

(1) 今後10年間の町田市民文学館のあり方について(2027-2036)について

【事務局】資料4にそって説明

【委員長】

過去10年間の評価を考えた時に、最初の10年は町田ゆかりの作家や文学にこだわりがありましたが、そういったものに限らず広範囲に言葉を巡る表現も取り込みながら、いろいろな題材に幅を広げて

きた 10 年でした。この流れの上に、今後の 10 年についてご討議いただきたい。

【委員】

地域に根差すという意味ではかなり定着してきたと思います。生涯学習センターの改修工事による休館で利用が増えたということは、町田での存在感があるということ。施設としてのハード面と、町田ゆかりの作家を扱ってきたというソフト面との両面で町田に根付いたといえるのではないのでしょうか。それを踏まえた上で、今後は町田に軸足を置きつつ、デジタル空間など、より多くの人に知っていただくことが重要です。文学館や書店でイベントをすると必ずネット配信が行われています。次なる一步としてオンライン配信をしていき、ある程度の収益化やチケット制度を整備してひとつの文学的イベントをする、デジタル空間としても整備されていくといいのではないのでしょうか。

【委員】

常日頃、子どもたちと関わっていて感じることは、言葉が足りない、子ども同士のコミュニケーションの中で言葉が足りない、と感じています。そのことによりトラブルがおきているのが現状です。本校では「2050 年の大人作り」を目指しており、その中では友達同士だけでなく様々な人とのコミュニケーションが必要になってきます。今、校内研究の一環で「国語」では「伝える」に取り組んでいますが、なかなか子どもたちの語彙が広がっていかない。例えば、日本には色や季節、雨などを表す言葉がたくさんありますが、そういったたくさんの言葉を子どもが獲得できるといいと思っております。今の子どもは自分自身のこと（体の調子が悪い等）もなかなか言えない。親世代の言葉も乱れているのを危惧していて、学校ではなるべくよい言葉のシャワーを子どもたちに浴びせたい。思考は言語によって構成されると思うので、言葉の獲得、言葉に触れる楽しさがあるといいと思います。

【委員長】

先日の生涯学習審議会では、文学館と学校の教育現場との接続がうまくいっていることを評価していただきました。教育現場と今後もどのようにつながっていくかを、今の子どもたちに必要なものを考

えることにより新たなビジョンが生まれてくるのではないのでしょうか。

【委員】

空間という観点からいうと、文学館が、家庭でも学校でもない第三の場所（サードプレイス）、居心地のよい空間になることで、子どもが集まる場所になるのではないのでしょうか。2026年の大規模修繕では機能更新がメインとなるようだが、（大がかりな改修ではなくても）ちょっとしたコーナーに素敵な家具があるとかソファがある等によって居心地のよさを作り出す工夫ができるのでは。デジタルの空間とリアルの空間で居場所を作れば、その時の自分の気分で好きな場所を選択できる、そのようにできると思います。

【委員】

文学館通りが8月から一方通行になります。これは歩道拡張の一環で地域住民はこれを実現するために30年活動してきました。一方通行になると歩きやすくなり、文学館通りが、町田を回遊するための魅力のある道になるのではないかと期待しています。こういった町の動きと、文学館が連動していけたらいい。地元と文学館がコミュニケーションをとってみんなが望む形にしていきたいと思っています。

【委員】

世田谷文学館は30周年を迎えたが、これまでも現在も地域が一番大事と思っています。文学館が開館した頃に通っていた子どもたちが大人になり、親になり通ってくれたり、職員になったりしています。文学館が帰るべき場所、安心して戻れる場所であることが重要で、それがミッションであり、強みであると感じています。

町田も地域密着型でやっていて、展示のアンケート（感想）を見ると20代のファンの方が「ずっと続きますように」と書いている。地元を大事にして続けていくのが大切だと思います。

5年前に世田谷文学館が改修工事をしたときに、図書室を子どもと大人が共存できるスペースに改修しました。その結果利用者が二倍になりました。

【委員】

面白い企画をやっているからこそ人が来館する。面白い企画をして

いるという印象がより強固になっていくと外からも人がくるし、地元の方が自慢できる場所になる。その両輪を目指すのがよいのではないのでしょうか。

大規模修繕は一年とはいえ、今来てくれている高校生には大きな影響だと思いますが、休館中でも彼らがアクセスできるものがあれば、修繕後に戻ってきてくれるでしょう。明るく開かれた空間にすることによって、再開後の来場者が愛着を持つ場になるといい。

【委員】

展示を見て本を借りて帰るといった流れができると、自分と場所とのリンクができる。次の世代に紡ぐためには学校や教育との連携も必要です。図書の貸出が伸びているということはキュレーションのセンスがよいということだと思あるので、小学校の図書館に「ことばらんど選書コーナー」を作り、ことばらんどが選んだものに触れる機会を作る。それがことばらんどを知ってもらうきっかけにもなる。地元の人がメインですが、文学館を起点に外につながるという形をどう設計するかを考えていければいいのではないのでしょうか。

【委員】

町田は都市の周縁部。都市と同じことをしても意味がないと思います。周縁部ならではの文化を発信する発信地という位置づけが獲得できると文学館の存在がゆるぎないものになっていくのではないのでしょうか。

【委員】

ビジョン・コンセプトということであると、子どもを巻き込んでいくことが一層大事だと思います。例えば、小中学校との関わりはあるのでしょうか。出張授業をしたり来場してもらってワークショップ的な事をして発見の眼を授けるような機会を作るといったことはされていますか？お勉強だと感じると逆効果ですが、学校の図書館よりもずっと面白いということ、自分の居場所かもしれないということが何人かでも伝わるといいと思います。

…休憩…

(2) 大規模修繕時にいかなる事業を実施していくのか？ (資料5)

【事務局】 資料5 について説明

【委員】

二つの中心、「橿田」で考えるのがよい。「町田」と「ネット空間 (=日本)」の二つの中心軸でこれからの事業や10年を考えていくのがよいと思います。地域との密着、学校との連携、地元で講演会をするなど「町田市民文学館」である以上は、町田の地域に根差した活動が一方で必要。しかし休館中は、ネットなど色々なところに飛び出していけば日本中の人に知ってもらおうアピールの機会ともなりますし、そのように振り切るよい時点だと思います。その両輪で考えていくのが大事だと思います。

コロナ禍では、ニコニコ動画で展示をデジタルで映してそれについて解説を行い話題になりました。場所がないからこそデジタルの展示物をだしてそれについて話すことができる機会。オンラインについては「町田」を念頭におきながらも、オンライン展示会や町田をテーマにした連続トークショーなど自由に行っていけばよいと思います。

【委員】

世田谷文学館では休館中に「移動文学館」という出張展示を小中学校、図書館、区民センターで実施した。最近は全国に貸出しています。休館中にこういったものの整備をして改修後も続けていくのもよいと思います。

【委員】

文学館の今後を考えることを、小中学生の授業の一環にできたらいい。彼らに「文学館がこうなったらいい」という意見を聞いてどこかに展示するなど。そういった市民や子どもが参加して文学館のこれからを考える場が作れるといい。地元のフェスに文学館ブースを設け、みなさんに書いていただくなど、市民の「文学館をこうしたい」という思いを可視化することができればいい。それをリアルだけでなくネットでも見られるようにデジタルとリンクしたり、市内の施設やイベントでこういったことができるとうよいと思います。

【委員】

学校の保護者アンケートでは「子どもたちが進んで読書する」という項目について肯定的な評価が少ないです。子どもが読書に親しむ

ために学校が何かをするとお勉強になってしまう。国語の授業では作者についてや物語の背景まで伝えきれない。そういった内容をYouTubeにあげてもらえると子どもたちが興味を持ってみってくれると思います。子どもたちには自分で調べることをさせているので、文学館でそういったことをしてもらえるとありがたいです。

【委員】

館内のハードやソフトを外で魅力的に、ということをやろうとすると通常より予算がかかる。パワーも必要な気がします。それよりもこじんまりとした内容であってもリアルな展示やトーク、デジタルを組み合わせて少しずつ積み上げていくというのがよいのではないか。その際に一つ提案したいのは親しみをもってもらう期間にする、という事かなと思います。館の外にでていくわけなので顔を披露していくのが大事なのではないか。こういう人たちがことばらんどを運営している。写真でなくてイラストなんかを使ってことばらんどに親しみをもってもらう。プログラムでいうと、前にもお話ししましたが、作家や編集者を招いてトーク、ワークショップのようなことをする、新刊本の紹介ならば色々協力してくれると思います。展示に加えて参加できる場になるといいと思います。

【委員】

アウトリーチして場所を忘れられないようにするのも大事。工事中は仮囲いがされて建物を認識することができません。道路空間を活用して存在を忘れられないようなことができるといいですね。横浜・関内の桜通りでは、道路を活用したアクティビティーを毎年2回行っています。内容は、スリッパ卓球やクリエイターの作品展、一箱古本市、道路に絵を描くなど。工事をやっていない土日などにそういったことをやるとよいと思いました。

【委員】

道路を使うのはよいアイデアですね。楽しそう。

【委員】

せっかく建物が無いので、「ない」ことをきっかけにネットワーク化ができると思います。町田の喫茶店の一角を貸してもらい（一口文学館に協力してくれる人を募集する）、みんなで文学館が無い期間をどう紡いでいくかということ在地元の人に主体的に考え

てもらう。イベント的な企画では、TIKTOKなどで町田在住のインフルエンサーや作家さんに、文学館との思い出やおススメの文章などの動画を投稿してもらい、一年間かけて「#仮想文学館」をリレー形式で発信する。そうすると、施設が復活したときに文学館がなかったことによってネットワークができている状態になります。文学館が主体のイベントだけでは終わった後に何も残りませんが、「ない」ことをネタにして参画してくれる人を増やすことをできたら、それが開館後にも残り、財産となると思います。他に休館中にできそうなこととしては過去のアンケート等の分析（年代の経年変化等）をするのがいいと思います。

【委員】

静嘉堂文庫等では閉館前「第何弾」という企画展をしていました。そういう戦略もありますね。

【委員】

仮囲いに「いい言葉（これまでの名著からの言葉など）」（市民に選んでもらったもの）を表示するなど、みんなが参加したいと思うことをやっていけたらいいですね。

【委員】

学校が次年度の内容を検討するのは11月。4月になってからでは難しいので、出張授業をする場合は早めにどこかで宣伝した方がよいです。

【委員】

TikTokは10代に人気だが、唯一の懸念点は横に広がらないということ。動画を一つ一つみるSNS。一つのチャンネルを登録すると関連するチャンネルがでてくるYouTubeとは異なります。横につながっていく動画サイト・SNS（YouTubeやX）に「町田市民文学館」が流れていくと知ってもらいやすくなるのでYouTubeやXの方が有効かもしれません。

(3) 文化施設の経営的視点で、いま、なにが求められているのか？

【委員】

コロナを経てイベントにお金を払う事に抵抗がなくなってきています。1000～2000円くらいが平均。文学イベントの相場が1500円くらいなので文学館も500円くらい参加費をとれば「安い」ということ

で参加者が増えるでしょう。絶妙な額を設定しイベントでお金をとるようにしたらいいと思います。

【委員】

世田谷文学館は指定管理であることもあり、直営の町田とは状況が異なっています。

【委員】

ある程度の金額を払えばその分ちゃんと見ようとしますが無料だとそうはならない。どのくらいが適正なのか、内容によっても変わるとはありますが、考えていく必要があります。

【委員】

スポンサーシップを考えてもいいのではないのでしょうか。例えば、渋谷のキューズというコワーキングスペースでは企業がスポンサーとなり、そこに集まる若い人と一緒にワークショップなどを行っています。徳島の高専では、企業から10億円を集めて、高専の生徒と一緒にプロジェクトを行っています。町田にも、文化を育てていくことにスポンサーする企業がいると思うので、大規模修繕のタイミングで声掛けしてみるといい。これは、町田を盛り上げていくことになるし、そこから育てていく人もでてきます。そこに投資をしてもらう。買い物ではないのでリターンは人との触れ合い等になりますが、来館者からお金をとるのではなくこういった手法もあります。

【委員】

行政の施設なので、原則としては民間できないことをやるべきだと思います。場所も大きくはないし、大きな投資もできないので高額な入場料は取れないと思います。中途半端に入場料をとって数百万円利益が上がったとして、その分予算が削られるようなことも想定されます。予算減を補うために目標が設定される、事業費がどうしようもない、ということになったら考えてもいいかもしれないが、現状ではむしろ無料であることをアピールするというのが当座はいいのではないかと、思います。私がやっている立川のプレイ・ミュージアムは完全に民間なので、ものすごく苦勞して収支バランスをとってやりますが、そうしたものは違うと思います。ちなみに東博や科博も場所貸しをしたり、事業収入を得ていますが、結局その分予算を減らされるという矛盾を抱えてやっています。

3 その他

(1) 第3回運営協議会スケジュールの確認

【事務局】

次回、第3回は12月の開催を予定しています。今回同様、時期が近づきましたら日程調整のご連絡をさせていただきます。